

# 富士山

## フジアザミ

深田久弥の日本百名山の富士山の項の書出しは「この日本一の山について今さら何を言う必要がある。」で、始まって、延々富士山の魅力について述べまくっている。そして、とうとう久弥自身が登ったのかさえ、記述がない。筆者もそうであったが、富士山麓を幾度となく撮影して回ったが、この山に登りたい衝動は一度もなかった。あまりに気高き山容に、ただ呆然と眺めるのが一番の贅沢なのではないかとも思っ

たりした。富士山の花を求めて七合目辺りまで登ったが、花がなくなると興味が薄れ、下山した。

日本産アザミの中で最も大きな花を咲かせるのがフジアザミ。富士山周辺に多い事からの命名。どちらも日本一というのがいい。草丈も花も大きい事から、遠目に認識できる。富士山周辺を探して回ると意外に多い。富士山スカイラインに登ると、途中の道路脇にフジアザミが出てくる。ここの個体は、

花がピンク色で総苞が緑紫色。総苞片も鋭く長いので美しく、凛々しい感じもする。

太郎坊にある御殿場口五合目登山口に来ると、真っ正面に富士山が見える。駐車場から黒い火山灰の斜面を行くと、そこには巨大なフジアザミの群生地があった。ここの花は赤黒い。総苞片が赤黒いのである。僅かばかりの距離で、雰囲気は全く異なるアザミが存在する。アザミと言う植物の変異の多さが混乱を招き、アザミ専門の

図鑑ができなかった所以なのである。

このフジアザミの前に立つと、背景に笠雲の富士山が聳えていた。日本一同士のコラボは、なかなかお目にかかれるものではない。

